

会 議 要 録

会議の名称	酒田コミュニケーションポート（仮称）整備検討委員会（第2回）
開催日時	平成28年6月22日（水） 午後1時30分 ～ 午後3時50分
場 所	総合文化センター 412号室、中央図書館
出席者	<p>○出席委員 矢口 明子 委員（委員長）、小田島 健男 委員（副委員長）、 片桐 晃子 委員、久木原 満 委員、齋藤 一男 委員、 佐藤 晶子 委員、佐藤 真美 委員、高橋 利春 委員、 田代 典子 委員、中原 浩子 委員</p> <p>○欠席委員 平尾 清 委員</p> <p>○事務局 中川企画振興部長、大石教育部長、阿部都市デザイン課長兼図書館主幹、 阿部図書館長、岩浪図書副館長 （都市デザイン課） 高橋課長補佐、本間主査、土井係長、高橋主任、今井主事</p>
<p>1 開 会（事務局）</p> <p>2 あいさつ（中川企画振興部長）</p> <p>・酒田コミュニケーションポート（仮称）整備検討委員会は、駅前に整備を進めようとしている公共施設のソフト部分について検討してもらう委員会である。ハード部分の駅前の事業の選定については、先日の6月12日に公開プレゼンテーション審査を行い、合わせて市民の方からアンケート調査を実施した。集計が終わり次第、選定委員が選定し、6月中には市として最終事業者を決定する段取りになっている。</p> <p>・前回の整備検討委員会は、流れを含めた総論的な話し合いとなったため、議論を深めることができなかったと思っている。今回は、中心となるライブラリーセンターの機能検討について、現在の図書館の実態を見て課題を共有していただき、議論を深めていただきたい。忌憚のないご意見を賜りたい。</p> <p>3 議 事</p> <p>(1) 前回委員会における確認事項等について（資料2～5に基づき事務局説明）</p> <p>・質疑なし</p> <p>(2) 本日の進め方、スケジュール等について（資料6、7に基づき事務局説明）</p> <p>・質疑なし</p> <p>(3) 図書館の事業等説明について（資料8に基づき事務局説明）</p> <p>・質疑なし</p> <p>(4) 中央公民館施設見学</p>	

○児童図書館について（質疑）

- ・母と子のお話会があるのか。
→（事務局）月2回している。紙芝居も数多くあるし、需要もある。蔵書数は1万7千冊で、7、8千冊開架している。
- ・自動貸出機は子供も簡単に借りられていい。

○中央図書館について（質疑）

- ・図書館の古くなった本をリサイクルで市民に提供している（入口近くに棚を設置）。
- ・3階はWi-Fi 配備でネット利用可。
- ・学習室が人でいっぱいだと、公益大の図書館で勉強している子が多い。もっと健全な場所（学習などができる環境）が増えればいい（昔は旧西高校舎で勉強できた）。
- ・学習室の利用者は東高生と西高生（一部）の利用率が多い。
- ・学習室は大人でも利用できるのか。
→（事務局）できる。1階で申込み（指名記入）して利用する。利用者カードがなくても利用できる。

(5) 意見交換

○2班に分かれて意見交換会

事務局

- ・本日は4つのテーマ挙げさせてもらい、その視点で1時間ほど議論していただきたい。
- ・各班の進行については委員長、副委員長にお願いします。肩の力も抜けていないところもあるので皆さんから近況等を踏まえて、自己紹介をお願いしたい。
- ・付箋に課題や改善点、新しいアイデアでもよいので一人ずつ発表していただきたい。

●A班 矢口委員長、久木原委員、齋藤委員、佐藤(真)委員、田代委員

委員

・2月から新しい仕事に就いて4ヶ月半くらい経ってしまったが、知れば知るほど分かっていなかったことが分かってきた。でも駅前は、自分が酒田に来てからずっとあんな感じなので、今度こそは何とかなればいいなということで考えている。大学時代の専門は行政学で、行政のあり方みたいなものを考えていたので、実践する機会を得たと思っている。

委員

・高校にはいろんな部会があり、図書館部会がある。今年は西高が事務局となり、立場上で部会長をすることになったことからこの度委員となった。自分が図書館に行くことはあまりなく、学校にあってもなかなか行かない。今日は、こちらの図書館を見せていただいて、改めて使われているなど実感している。学校の司書に聞いたところ、学校の平均貸出冊数は1人3冊程度となっている。

委員

・普通の母親の意見ということで参加させていただいている。
・駅前には、子供の部活の関係で毎朝、夕方、夜と合わせて3回通っていて興味があった。駅前に子供の待合室ができたらいいなと思っている。普通の意見しか出せないと思うがよろしく願います。

委員

・自分は酒田に住んだことはないが、仕事の関係でお世話になっている。酒田には大変お世話になっている人がおり、ある意味身近になっている。
・観光の目線でのまちづくり、地域づくりということで今回お力になればと思っている。普段仕事では地域活性化に結びつくような視察とか、海外国内を含めた視察の企画、添乗もやっている。

委員

- ・若者の目線かつ仕事もやっている民間という目線で意見出せたらと思っている。

委員

- ・酒田の図書館のひとつのポイントは、公益大と支所にも図書館がある。既にやっていると思うがさらに連携が必要と考える。
- ・(現在の図書館は) バリアフリーの面で課題があり、エレベーターもない。
- ・駅は高校生と観光客だが、まずは高校生の視点を大事にしたい。
- ・子育てとあるが、図書館は赤ちゃんからお年寄りまで、収入も関係なく無料で使用できる施設である。介護、障がい、外国人の視点も大事である。
- ・酒田市の各種行政計画の蓄積する場所として、公文書を過去のものから置いてもらうと良い。
- ・市民の古本をリサイクルコーナーに持って来れば、ごみの減量に繋がる。

委員

- ・本を読んでも自分はすぐ集中できないので、窓からの外の眺めが気になった。木々が見えてとてもゆっくりできた。読書する人は、そんなに気にもならないかもしれないが、そういった快適性は必要かなと感じた。
- ・高校生の立場で学習室はありがたく、集中できる環境である。列車待ちとかの生徒が勉強できる環境が作れたら良い。
- ・母親と父親と一緒に来ているようなデータがあったので、子供用のスペースの充実を。外から転勤して来た人に聞いたが、知り合いもないので公園デビューしようと思ったが日中誰もいなかった。そんなときに図書館に行ったら知り合いができるといったものが、PRも兼ねて出来ればどうだろうか。そういった意味で、子供用(児童図書室)と中央図書館に壁があったので、(壁なく)気軽に行き来できたら良い。
- ・気軽にお茶とか飲めるスペースがあってもよい。気軽に立ち寄れる雰囲気欲しい。
- ・閲覧室では、一生懸命に読んでる方と目が合ってしまう。そういうのが気にならないように、窓際のようなスペース、広々とした開放的なスペースが欲しい。
- ・酒田ならではの図書館を出して、酒田をアピールできると良い。

委員

- ・もう少し開館時間が長ければ、社会人も仕事帰りに立ち寄れる。
- ・勉強室や学習室があっても中高生があまり知らないのではないかな。実際自分の子供やその友達に聞いてみたが行ったことがない。こんな良い環境があるのだなと初めて知った。もう少し情報発信した方がいい。
- ・部活で忙しくて土日も行けないと言う子供が多いと思うが、忙しくても行きたくなるイベントが欲しい。
- ・静かな学習スペースを広げると良い。
- ・乳児幼児の読み聞かせの回数を多くしてPRしたら良い。生活の一部になるようになるともっと集まってくるのではないかな。

委員

- ・場所が酒田駅前ということで、今回山形から新庄乗換えで、電車で来た。
- ・初めて乗ったが、列車からの車窓がとにかく素晴らしかった。最上川がずっと右に見えて、山々や風力発電が見えてきたりヨーロッパのようだった。緑がたくさんあって素晴らしい景色があって、こういった風景を見ながら、この酒田のここが目的(目的地)になるような一つのストーリーができると素晴らしいのではないかなと感じた。
- ・この物語ができ、県内、市外からのお客さんが来るようになると、きっと市内からも集まってくるのではないかな。割と地元の方は地元の良さが分からない人が多いので、外からのいろんな人から注目されて集まるようになるのが、一つのポイントとしてあるかなと感じながら来た。

・一つのストーリーを作ってツアー化するということが面白い。それには何が目的なのか、なぜここに来なくちゃ行けないのかというものが、この図書館を含めた駅前にあるというのがやっぱり前提となる。やはり一つ大きな目玉が大事。そうした時に図書館も普通の図書館ではなくて、本当にこれまでないような図書館を目指しているということだったので、まず県外からのお客様が来た時に必要となってくるのが、いろいろな酒田の魅力、地元食が情報として得られるということだと思う。ここに住んでいる人が勧める酒田の名所だとか歴史だとか何か情報として得られる。その酒田の人の顔が見える、その人と話しができるというスペースがあれば面白いのではないかな。

・具体的には酒田ならではの食が楽しめる、地元ならではの情報、見る、読むだけでなく実際体験もできるというところもあればいいのではないかなと思う。

・さらには酒田の人たちがこういうものを行っている、取り組んでいるということを市民が自由に発信できる場所が図書館の中あるいは近辺にあったら面白いのではないかな。

・児童文庫からの景色が駐車場だったので、子供にとって、子育てのママにとって癒される風景がある中で読みきかせたりできることが必要と思う。

・利用者のほとんどが女性というデータがあったが、先ほど実際行くと男性がほとんどだった。なかなかまちづくりという女性の声が大きいけど、ああいった形で男性利用者が多かったので男性の目線やなぜこの時間に男性が集まっているのかなど検証すると今後のイベントの組み立てのヒントになるのではないかな。

委員

・キッズスペースと学童施設が隣接しているのは、良い。

・ガラス張りの新刊が手に触れられないのは、残念。

・レビューとかが欲しい。本を読む人は何で決めるか。本屋を参考にして欲しい。並べ方も工夫が必要と思う。

・SNSへの対応がされていない。

・19:00で閉館してしまうと、仕事が終わってから、試験の対応で勉強する人が利用できない。小さい子供がいると家に帰るとなかなか出来ない。会社で試験勉強をやるわけにもいかない。仕事上で必要な試験の勉強を、仕事帰りの数時間と考えると、21:00くらいまでやってもらうと利用用途がぐんと上がるのではないかな。

・キッズスペースについて、流行と教育というところで今三国志を知りたがる子供が多い。なぜかという妖怪ウォッチの影響である。親に三国志って何なのと聞くが答えられない人が多いので、三国志の学習本がすごく子供達に読まれている。そういう流行と教育というものに敏感になるような、そういう感覚の職員が必要だと考える。

・キッズというと幼児を大体想像するが、幼児だけでなく小学校低学年くらいの子と一緒に行動することが多いので、そういう子供達が一緒に来ると飽きてしまう。例えば、レンタルDVDが見られるような場所など、幅広い年齢層に対応できると来易くなる。

・一度メール送るタイプではなく、番号認証のWi-Fiにしてほしい。

・スマホ対応のHPにして欲しい。図書館を検索するアプリがたくさんある。バーコードもすべて読み取れる。自分が読んだ本の記録や気になった本の予約ができたりする。

・学習室は、テーブルに電源を付けて欲しい。コピー機の設置も欲しい。

・自分の地元には、大学受験用の赤本があった。高いのでみんな買えない。手続必要なのかもしれないが、置いたら、東高の子とか来るのではないかな。

・英語学習の機会について、酒田一中、二中の子と話す機会があった。英語学習というか英語に囲まれる機会がないようだ。生徒からコンビニとか表札とか値札とか全部英語にするぐらいしたらどうかと言われ、それでは不便ではないかと応えたら、そっちの都合でしょと言われた。子ども達にとっては、英語を学べない方が不便だと。確かに私達は英語に囲まれた環境は不便だが、子供達にとっては

必須になるので、私達の感覚で不便だと考えてしまうのは子供達にとってはマイナスである。ちょっと行き過ぎたくらいの国際色のある図書館とかにってしまった方が、子供達に英語に囲まれた環境を作ることができる。ALTで時間のある人にいてもらって、英語でしか話せないとか、それくらい思いきってやったら利用価値が上がるのでは。

委員

・学生は、学校に図書館があるので、あえて市の図書館に来る理由をどう見つけるかというところはあると思う。やはり遅くまで勉強で利用できるとか、土日に利用しやすいとかそういったところは必要と思う。

委員

・使い方を既に知っている人はいい。先ほど、図書館で新聞読んでいる人達はたぶん新聞を広げやすいのだと思う。落ち着いて新聞読めるから、あえてあそこで読んでいる。知っている人はいいけど、知らない人へ、こうできるよという情報発信をしっかりとしないといけない。

・本屋と何が違うか。なぜ本屋に行くか。今どういうものが流行っているか、売れているかがすぐ分かるからである。例えば20代で読んで起きたい本とか、あえて特定の年齢層を触発するとか、名作をきっちり紹介してくれる人とかカウンセラーのような、どんな本を読んでおくべきだよと教えてくれるような人がいるとよい。

委員

・本をあまり読まない自分としては、図書館がそんなにも身近ではない。こんなことを考えているけど、こういう本が欲しいけど、自分で探せない人に紹介してくれるコンシェルジュのようなそういう人がいると行ってみたいと思う。

・ネットで検索できるし、本も見られる時代だが、なぜ図書館に行くのかとなった時に、相談できるというのはすごく重要ではないか。

委員

・一般の方は、レビューをみる。本の感想である。図書館の本に帯がないので、やはり見せ方が重要と思う。

・郷土史のコーナーも閉架書庫の脇にあったが、そこに公務員志望は必読とか、公務員になりたい人は自分のまちを知らないといけない。そういう工夫が必要で、図書館だからこそできる本の紹介方法があるはずである。

委員

・点字本や音声など、障がい者への対応も大事である。

委員

・体験の場がそこで出来なくても、出来る場所への案内を観光情報センターで行う。地元体験へ結びつける仕組み作りを。

【A班】ホワイトボードまとめ

●交流

- ・学生が部活で忙しくても行きたいと思えるイベントのようなものがあればいい。
- ・気軽に立ち寄れる雰囲気作りをしたい。
- ・開館時間を長くしてほしい（仕事後の社会人への対応、学校などの試験対策で夜遅くまでしてほしい。せめて21時くらい）。
- ・市民間でのイベントや交流、学びとなる場が欲しい。
- ・子育てだけでなく、介護、障がい者、移住者の視点からの設計が大事。
- ・地元の食が楽しめる場が欲しい。
- ・市民が本を持ち込めるリサイクルコーナーの設置（ゴミの減量化にもつながる）。

- ・市民や来訪者関係なく自分の取り組みが発表できる場を作りたい。
- ・将来の利用者となる高校生の視点を大事にしたい。
- ・本のコンシェルジュがいるといい（本屋との差別化）。

●子育て

- ・乳児、幼児の読み聞かせイベントがあるのは良い。
- ・キッズスペースが学童施設と隣接してあるのは良い。
- ・子連れの親が利用しやすい環境づくりが必要。
- ・キッズスペースに幅広い年齢（乳児、幼児、小学生くらい）に対応できるようなAVコーナーなどの設置（子育て中の親が連れて来られるように）。

●学び

- ・静かな学習室があることで集中して勉強や作業ができる。
- ・子供の流行と教育を結びつけたものにして欲しい（例：妖怪ウォッチの三国志から、その本を充実させたブースや企画コーナーなど）。
- ・学生は学校に図書館があるため、時間や機能で差別化していかないと利用者となってくれない。
- ・学習室に電源、コピー機があると便利で利用者の幅が広がる。
- ・（進学する学生向けに）大学受験の赤本の設置の充実により、学生の利用性をはかる。
- ・英語を勉強する機会や場所のように特化したブースの設置をすると良い。

●情報発信

- ・子供たち（特に中高生）が図書館の利用方法をあまり知らない。子供の知る機会や情報発信の工夫をするべきである。
- ・利用者が見たいと思うような工夫（本のレビュー、ポップ、並べ方、見せ方）が必要である。
- ・ガラス張りのところに新刊が置いてあるため手に取って見れない。
- ・SNS（facebook、twitter等）での情報発信がない。
- ・酒田市の各種計画等の行政資料のコーナーの設置をしたい。
- ・酒田市の文化をPRするスペースを目立たせたい。
- ・酒田駅が目的地になるストーリーツアー化をしたい。
- ・地元ならではの情報や発見ができるスペース（体験コーナー）のようなものができるといい。
- ・フリーWi-Fiの設置（現在は登録が必要）。気軽に利用しづらい。
- ・検索に便利なスマートフォン対応のHPの開設をしてほしい。
- ・地元の人のおすすめの酒田の名所を紹介するコーナーが欲しい。

●B班 小田島副委員長、片桐委員、高橋委員、佐藤(晶)委員、中原委員 委員

・今現在の児童図書館が中央図書館と分かれているのは、にこっと（子育て支援団体）のお母さん達が声をあげたのがきっかけにある。児童図書館が分かれていないと、子どもが急に泣き出したり、大きな声を出したりなどお母さん達はゆっくり本を選ぶことができなかつたし、子供もゆっくりできなかつた。市に相談したら、当時の子育て支援課長が来てくれて、会議を開き市で検討してくれて今の形になったという経緯がある。酒田市は声をあげたら応えてくれると思い、今回も自分たちの声が反映されればいいなと期待している。

委員

・図書館が酒田の文化の中核を担ってきたのだなと感じ、大事にしなくてはと思った。

・前任の方が亡くなられた後に県立図書館の委員会を引き継いでから何年か経ったが、勉強させてもらっている。県立図書館は蔵書数が40万冊。開架が少なく、もったいない。県人文庫のスペースを広げて開架を増やした。最近、チェリーランドの近くに親子連れで行けるシアターができたり、バー

コードが本についたりした（酒田市導入済）。前は飲食厳禁だったが、授乳コーナーや赤ちゃんの飲食可能スペースができた。だんだんとニーズに合わせて変わってきているという話を聞いている。

・酒田市の図書館利用者データを見ると、学校に通う前の子どもや、子育て中のお母さんたちの利用率が多いと感じた。児童書の充実は大事である。国立図書館も独立して児童館を作った。酒田も絵本の充実が目玉になるといいと思う。

・中高年（60代以上）の知的な男性の読書ニーズに応えてほしい。

・児童書と中高年向けの本を充実したうえで、ヤングアダルトコーナー（10年前くらいにできた）ももっと充実して欲しい。

委員

・活字とは縁遠かったが、自治会連合会に入り、図書館協議会の会長をしている。

・新聞だけは毎日読んでいるが、本とは縁遠い。図書館を見てみて、年配の方に優しい本（活字が大きい）があった。他にもテレビで見たのだが、見やすい本（背景が黒で文字が白）があるなど、最近の図書館は年配者に優しい図書館になってきていると感じる。

委員

・本に関して言えば、映画のおくりびとに感動して移住する前は、千葉で学習塾をしていた。2歳半から55歳までの100人くらいの生徒を一人で教えていた。英語を教えるはいたが、基本的に国語が大事だと思っていたので、一番取り組んでいたのは本を中心にして国語力を鍛えたくて、英語塾をしていた。

・ブラジルに5年住んでいた時は、上の子供が1歳で、下の子供はブラジルで生んだ。日本語の力が大事だと思っていたので、子供に毎日絵本や昔話を読んでいた。

委員

・平成13年に遊佐でお世話になっていて、平成20年まで仕事をしていた。

・昨日、おとといは市の職員と座談会をして、午後からは吉野さんの朗読会を松山の里仁館で聞いていた。

・今日の午前中に中央図書館を利用していたが、3階が開架図書空間だと思っていたが、事務室と学習室になっていて、空間の規模に妥当性あるのか気になった。

・北庄内の拠点の空間として、閲覧や蔵書数含めてどれくらいの機能が必要になるか関心がある。

・電車待っている間などのちょっとした時間にどう時間を使うのかや、蔵書でない別の情報をどう管理したらいいのかが気になる。

・子供向け図書の支援について、新しい機関がどう機能されるのか大事。

・運営について、司書サポーターのような存在を住民に持たせて、住民が関わって交流しながらサポートしつつ、レファレンスできるような環境があれば次につながる施設になると思う。

・もてなしの心が大事だと思う。観光情報などいろんな情報が不備な時にレファレンスまでいかになくとも、補えるような施設になればいいと思う。そこから発展して英語や中国語など語学への対応の機能があればいい。

委員

・イベント情報やU・I・Jターン情報などを集めてほしい。

・カフェ（制約を減らしてルール作りは市民が作る）があるといい。カフェのルールは中学生や高校生、大学生、子育て中のお母さんたちが作ったあと、最後に大人たちが付け加えるくらいにした方がいい。大人が言うと子供が意見を言えなくなるので、若い人たちの意見を先に聞いた方がいいのではないかと思う。

・ライブラリーセンター自体が情報発信の場として、全ての情報が集まるようにできるといい。

・オガール（岩手県紫波町の図書館）の選書はすばらしい。テーマ毎に分類されていて、イスがコーナーごとに置いてある。

- ・あんなこと、こんなことを知りたいと思った時に教えてくれるコンシェルジュの存在があるといい。
- ・勉強を教えてくれる学生の先生がいるといい（大学生→高校生→中学生→小学生の流れのように）。
- ・地域の方が先生になる講座や、子供が遊び方を教えてくれるこども先生講座があるといい。
- ・30分～1時間くらいの託児サービスがあると、お母さんがゆっくり本を選べたり、読めるようになったりするため助かる。
- ・3、4歳くらいの子のための読み聞かせや習字、粘土遊び、お絵かきなどのアート活動をしている間にお母さん達がゆっくり本を読む時間を確保したらどうか。

委員

- ・指導者を育成する場があればいいと思う。
- ・学生の学習の場の確保が必要である。
- ・ゆっくりお母さん達が本を借りられるよう、託児システムや小さい子供が遊べるスペースがあるといい。
- ・今日図書館を見て思ったのが、団塊の世代の男性が本を借りている人が多くてびっくりした。活躍できる場作りが必要だと思う。
- ・ハードの面になってしまうかもしれないが、駐車場からの動線（安全に図書館に行けることや、途中で雨に濡れないとか）が大事だと思う。

委員

- ・授乳室が必要だと感じた。
- ・パソコン利用スペースが4人掛けのテーブル1つにイスが2つしかない。もう少し席があるといい。
- ・司書の職員同士の交流を活発にすると、本の情報交換をする機会やコミュニケーションが増えると思う。

委員

- ・閲覧スペースや収蔵スペース、端末が少ない。
- ・カフェギャラリーなどの隣接空間の充実は大事だと思う。
- ・ライブラリー内のスペースの棲み分け（学習・くつろぎなど）を設計段階でして欲しい。
- ・駐車場が隣接していると、子育て中のお母さんたちは特に便利になると思う。
- ・蔵書の企画展示やディスプレイの充実は、スペースや司書機能があればもっとできると思う。
- ・あまり知られていないパソコンの横断検索の周知や拡充ができれば、専門書含めいろんな本を読めて勉強できる。
- ・パートの司書が勉強の機会を増やすことやレファレンス機能の充実が必要だと思う。
- ・絵本と児童書の充実は重要だと思う。
- ・親子の憩いの場（休めるところと子供を預ける場）が必要だと思う。
- ・お年寄りにも優しい大型活字本をもっと増やした方がいい。
- ・ヤングアダルトが喜ぶものが増えてほしい。
- ・郷土資料（酒田詩人の資料編は特にない）の拡充や本にまつわるイベント（講演会やワークショップなど）の開催があるといい。
- ・高校の図書委員が市民ボランティアとして、図書館の整備に参加や企画展示などをしてもらえたら楽しい。

委員

- ・（今まででた意見をまとめると）図書館そのものの環境をどう作るか、内部の中にどういうものを作るか、それを運営する人の問題がある。ライブラリーセンターの機能としても、本を貸すだけでなく、問題が起きたときにどう解決するかレファレンスが大事になってくる。レファレンスの専門や職員体制の問題も出てきている。
- ・今まで出た意見でニュアンスが共通している意見もある。市民がこの施設にどう経営参画できるか、

そのために環境を整備しなくてはいけない（学校と連携するなど）。みんなに支えられている施設だとイメージさせるために市民が変わっていくのが大事だと思う。

・酒田は北庄内の拠点として、庄内全域の情報提示ができるような施設になればいいと個人的に思う。

委員

・赤ちゃんから高齢者までどう参画してもらうかが大事だと思う。

委員

・教育委員会の事務室で職員体制をさっき見てきた。誰が司書の資格もっているか聞くと、2人くらいとのことだった。人数が少ないのはいいのだが、体制が弱いのを市民がどう関わって、改善して補っていくかを図書館が出来てからでなく、出来る前から考えていくのが大事になる。

委員

・広報機能の拡充が必要だと思う。ホームページの充実や、新体制になったらイベントなどの周知をブログで行い、スマートフォンで閲覧できるようにすべきだと思う。

・学校図書館と公共図書館の連携はもっと可能性があると思う。

委員

・学校図書館との連携が進んでいるため、大事にしていきたい。

委員

・温海観光が進めている学校図書館改造のような、司書の人がいいつでも出前を幼稚園・小中高にできるといい。司書機能の拡充により、パート（2年後毎に代わる）ではなくて指導する立場になったり、専門家になったりして先生になる司書の育成システムがあるといい。

委員

・先生になれそうな人が酒田にいるのに活用できていない。

委員

・市がレファレンスの機能を期待しているかどうか。（図書館は）ただ、本を貸すだけの機関でなく、観光情報やいろんな情報を提供しているという認識にしないといけない。

委員

・24時間365日開館やWi-Fiの導入は可能であるならばありがたい。

・夜にお酒が飲めたり、図書館に泊まれたりができればいいと思う。

・学習の面では、地域の先生を活かせるようなラーニングコモンズがあるといい。

・地域の人の考えを繋ぐようなコンシェルジュの存在がいるといい。本だけでなく、市民が地域課題の企画書をあげて提案するのも面白いと思う。

委員

・行政情報だけでなく、地域の防災情報やイベント、求人情報など図書館にきたら分かるという地域の人のニーズに応えられる機能が欲しい。

・子供の心の状態をみて、本を薦める機能（子供のこころの成長に則した司書機能）やそれをできる人がいるといい。

委員

・コンシェルジュは市民の声を吸い上げて、発信できる存在であってほしい。

委員

・ライブラリーセンターに来たら、なんでも情報が手に入って、解決する。

委員

・図書館に行きたくても、交通手段がない人は交通機関のバスを利用することが多いと思うが、返却は近くのコミセンで可能だったり、県立図書館で本を借りたり、返却は酒田でできるなどの周知をもっとした方がいい。

委員

- ・これからライブラリーセンターを使う世代の若い子は発想が柔軟なので、市民向けのワークショップだけでなく若い人（中・高・大学生あたり）のワークショップもして欲しい。
- ・アンケートの選択肢の中から選ばせるのではなく、自由に考えさせる形がいいと思う。
- ・今の図書館を使わない人は何か不満があるから使わないのだと思う。（個人的に）オガールであればすぐ行きたい。なぜ行かないのかというところにヒントがある
- ・高校生がこんな施設だったら行く、というものを作ればいい。

委員

- ・若い人たちに意見を聞くことで、あなたたちの図書館を作るのだと市が示すことができる。若い人たちも大人が作ったのではなく、自分の意見や声が入っているのだと思えば、愛着が湧くと思う。

委員

- ・光陵高校の図書館はすばらしいのに、生徒たちはあまり使っていない。敷居が高いと思っているのかもしれない。図書館のディスプレイは行くたび変わっているし、お手本のようなものである。そういうことができる人に意見を聞いてもいいと思う。あとは、全員に聞くのは大変だと思うので、学校の図書委員など図書館に親しみのある生徒にまず意見を聞いてみるのもいいと思う。

事務局

- ・ライブラリーセンターは出来てからもずっと続く話のため、今年中に全ての意見を聞かなきゃいけないわけではない。建物の建設も先の話のため、今回は基本計画を策定するが運営をしていけば、毎年あると思うし、出来てからも続く話だと思う。

委員

- ・同じ 3000 m²でも、四角っぽい形なのか、ドーナツ型なのかなど施設の概要がわからないとイメージも持ちにくいと思う。

事務局

- ・今月（6月）下旬に決まる予定である。ドーナツ型のような提案もあるし、四角っぽい提案もある。事業者が決まれば大きく変わることはないと思う。

委員

- ・最初の段階に若い子たち入れてほしい。いろいろ決まってから子供たちを入れるのとでは意味が違ってくと思う。

事務局

- ・ぜひ中高生の意見を聞いてほしい。酒田に限らないが、今の中高生は本を一か月に1冊も読まない。

委員

- ・それはどうしてなのかを聞いてみたほうがいい。
- ・以前、おもてなし 200 人のワークショップをやったたくさんの意見が出たので、図書館でもしてみてもいいと思う。

事務局

- ・子供が音を出してもいいスペースは必要だと思う。夜の時間帯まではいらないと思うので、例えばだが、絵本の本箱がひっくり返って、夜は違う利用形態に変わるという仕掛けがあっても面白いのではないかな。お酒が飲める空間があっても良いのではないかな。

委員

- ・絵本を読みたい大人も最近増えている。

委員

- ・本を借りて家で飲んでもらったほうがいいのではないかな。

【B班】ホワイトボードまとめ

●交流

- ・すきま時間に気軽に利用できるような場所にしたい。
- ・学校との交流、支援を増やすことで、学生が利用しやすい図書館にしたい。
- ・市民司書が創設できるといい。
- ・市民がルール作りをした制約の少ないカフェがあるといい。
- ・カフェやギャラリーなどの図書館と隣接する空間の充実によって、図書館以外に用事がある人も利用する機会を増やせる。
- ・図書館のHP、ブログなどSNSの充実が必要になってくる。
- ・ライブラリー内のスペースの分割（学習、くつろぎ、読書）ができるような様々なニーズに対応できる図書館だといいい。
- ・大学生→高校生→中学生→小学生と勉強を教えあえる環境作りをしていくことで、世代ごとの交流が生まれる。

●子育て

- ・図書館に短時間（30分～1時間）の託児サービスがあると親子連れで通いやすい。
- ・子供だけのイベントがあると、母親が本をゆっくり読む時間を確保できる。
- ・乳幼児の遊べるスペースがあるといい。
- ・親子の憩いの場が欲しい。
- ・絵本、児童書をもっと充実して欲しい。

●学び

- ・団塊の世代の方が活躍できる場作り、ニーズへの対応が必要である。
- ・学生の学習の場の確保が必要である。
- ・地域の人が先生になる地域先生講座ができたらいいい。
- ・子供が先生になって実施する「子ども先生講座」を作りたい。
- ・中高大学生の声をもっと拾って意見を取り入れることで、「自分たちの施設」と思ってもらえるようにしていきたい。

●情報発信

- ・地域のコンシェルジュを活かす。
- ・レファレンス専用のコーナーを作ることで、利用者が利用しやすい図書館にしたい。
- ・「本」にまつわるイベント、ギャラリーを充実させたい。
- ・司書の市民、高校生ボランティアを活用したい。
- ・高齢者向けの大型活字本（点字本や音訳CDも含めて）を増やしたい。
- ・地域の情報が集まるような図書館にしていきたい。
- ・地域間での連携を多くしていきたい。
- ・北庄内の情報の収集の場となる役割を担わせる。
- ・蔵書の企画展示、ディスプレイの充実、魅力アップをはかる。

●その他

- ・県内、市内の蔵書のパソコンによる横断検索の周知をする。
- ・駐車場～図書館までの動線（利便性、安全性）で、人を呼びやすくする。
- ・選書（テーマごとのコーナーを作る）などの工夫をする。
- ・パソコンの持ち込みができる部屋が増えるといいい。

○全体意見交換会

A班について事務局より発表

B班について事務局より発表

○全体を通して

委員

・今日出た意見がどう活かされていくのか楽しみである。

委員

・図書館に関わったという経験で図書館に愛着を持つ人が多くなるといい。

委員

・市民の声を聞こうとする行政の姿勢がありがたい。今日みたいに4つのキーワードに絞られていると話しやすい。

委員

・利用価値を高め、伝え、工夫していく場にしていきたい。施設ができてからもあり方の検討が大事になってくる。

委員

・今日見学してみて図書館が身近になった。通ってみたい。酒田CPもそういう施設にしていきたい。

委員

・新しい手法の委員会楽しかった。施設ができてからも常に変わり続けることが大事。市民のパワーとコンシェルジュを合わせて、酒田ならではの図書館ができればいいと思う。

委員

・人に会える場所というのが私の中で大きい。人と人が直接交流できる場となればいいと思う。

委員

・幼児から高齢者まで使える図書館にしていけるようにしていきたい。

委員

・久々に図書館を見学して、また利用してみようかと思った。意見が反映されたらお母さんたちも嬉しいと思う。

委員

・図書館の枠を越えた複合施設にしていきたい。中・高・大学生を巻き込んで「自分たちの施設」と思ってくれるようにするのが大事だと思う。

(6) アンケート調査(案)について(資料9に基づいて事務局説明)

委員

・アンケートの別紙1は中学生には内容が難しいのではないか。別紙2の高校生向けのアンケートは自由記述の欄を要旨の半分くらいに広げて、○をつけさせる項目は必要ないと思う。自由な発想を聞き出せるようなアンケートにしたほうがいいのではないか。

委員長

・意見として承る。

(7) 先進地視察について(資料10に基づいて事務局説明)

(8) その他

なし

4 閉会